

授業科目名	海外実習 B	担当教員	大野 はな恵 岡元 ひかる
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	実習		
開講年次	2 年 第 2 クォーター		
講義内容	ドイツ国内において、2 週間程度の滞在研修を行う。具体的には、現地のダンスフェスティバル、音楽祭、ミュージカル、文化施設の展示などを視察する。さらにアーティスト、ドラマトウルク、劇場職員、芸術祭ディレクターを含むドイツの芸術関係者たちによるワークショップやレクチャーを通じ、ドイツの芸術文化と職能について幅広く学ぶ。渡航前に、現地での学びを充実させるために、数回の事前学習授業を実施する。		
到達目標	<p>(1)ドイツ特有の劇場制度、助成金システム、歴史に根ざす記憶文化とその思考をめぐる今日的状況を、渡航前の予習と現地の体験を組み合わせることで学ぶことにより、グローバルな視点から芸術と社会の現在地を把握する。</p> <p>(2)ワークショップへの参加や作品鑑賞から、古典的／実験的／商業的な芸術表現それぞれに固有の特性を、自律的価値（作品固有の美しさや構成）と社会的価値（作品が社会に与える影響）の両面から考え、言語化することができる。</p> <p>(3)現地アーティストや芸術祭ディレクター、劇場関係者との対話やワークショップを通じて、芸術やコミュニティに関わる職能の多様性を知る。</p> <p>(4)ドイツの各地域における文化や歴史や環境と、昨今のプロジェクトとがどのように影響し合っているのかを学ぶ。その知見をもとに、日本における芸術文化と観光が、どのように持続可能な関係を築くことができるかを考える。</p>		
授業計画	<p>引率者：大野、岡元 履修人数：約 8 名</p> <p>5 月～8 月上旬：事前学習会 約 3、4 回 8 月第 4 週～9 月中旬の間で約 2 週間：渡航＋現地滞在（前半ハンブルク／後半ベルリン）</p> <p>〈主なプログラム内容〉 ※今後変更する可能性があります 「8 月のダンス」フェスティバル視察／ベルリンの美術館島視察／ベルリン祝祭劇場視察／現地アーティストによるワークショップ／現地ドラマトウルクによるレクチャー／カンパナーゲル劇場の夏季フェスティバル視察／ミュージカル鑑賞／バレエ鑑賞／エルプフィルハーモニー劇場ツアー</p>		

	<p>一／その他公立劇場視察 など</p> <p>(2025 年度実施する説明会・履修者選考について)</p> <p>下記に関する案内は、今後すべて学内全体向けのメールで行います。なお、スケジュールが少し前倒しになる可能性もありますので、履修に関心のある人は必ずメールをチェックして下さい。</p> <p>2025 年</p> <p>2月中旬：説明会の開催日時の告知</p> <p>2月末：説明会＋選考方法の告知(学内全体向けメールでも告知します)</p> <p>3月上旬：選考</p> <p>3月上旬：結果告知</p> <p>3月上旬：航空券＋ホテル予約の手続き開始</p> <p>2026 年</p> <p>4月以降：現地での詳細スケジュールの確定</p> <p><b>【留意事項】</b></p> <p>各日程は現時点での予定であり、諸事情により前後する可能性があります。</p>
事前・事後 学習	<p>5月～8月上旬に、約3、4回にわたって事前学習会を実施します(宿題や課題を出す可能性有り)。事前学習会は研修の成果を左右する不可欠な準備であり、参加状況や提出物は成績評価に直結するため、必ず責任を持って取り組むこと。</p> <p>研修中の日報と、事後レポートを帰国後にまとめて提出してもらいます。</p>
テキスト	適宜指示します
参考文献	事前学習会の中で紹介します
成績評価 の基準	<p>事前学習会への出席率および提出課題など (30点)</p> <p>研修中のプログラムへの積極的関与 (30点)</p> <p>日報と事後レポート (40点)</p>
履修上の注意 履修要件	<p>研修期間全日程に参加できることを履修の条件とします。</p> <p>1日の実働時間は8時間(休憩1時間を含む)を基本としますが、海外実習の性格上、業務の必要に応じて変則時間となる場合があります。</p>

実践的教育	該当しない。
備考欄	